

先輩指導主事からのメッセージ

所属 教育委員会事務局 義務教育課

職名 指導主事

氏名 秋田 大輔



「チームの力」を大切にして、誠実がんばります！

なぜ、指導主事に？今振り返ると

小学校教員として18年間勤めた後、指導主事として義務教育課に勤務し2年目を迎えています。学校現場では、日々の業務に悪戦苦闘しながらも、子ども達はもちろん、保護者・地域、職場の方々に恵まれ、充実した時を過ごすことができたと思っています。18年の間には、理科研究発表会の全国大会や、在外日本人学校での勤務など、様々な経験をすることができました。ただ、5年くらい前から、漠然と自分の将来の進む方向について、考えるようになりました。子ども達と一緒にずっと現場でがんばっていくのか、一旦現場から離れ、子ども達のために違った視点から教育に関わっていくのか……。周りの先輩教員や管理職の方と色々な話をする中で、自分自身の視野を広げることの大切についても考えるようになりました。そんなことを思いながらも、学校現場の忙しさの中で、毎日が過ぎていきましたが、2年前、校長先生から「指導主事試験を受験するなら今年だぞ」と、背中を押してもらいました。

今振り返ると、自分のことを気にかけて、ベストのタイミングで声をかけていただいたことに感謝しています。

義務教育課の仕事内容は？

県教育委員会事務局義務教育課では、初等・中学校教育班に所属し、主に小学校に係わる仕事を行っています。昨年度は自然学校や環境体験事業、スーパーティーチャー派遣事業など、今年度は新学習システム等を担当しています。その他にも、教科指導や国の指定事業など職務内容は多岐にわたります。

義務教育課の仕事は、文部科学省と学校現場の橋渡し役の面もありますが、兵庫県の小中学校に関係する全ての事業のスタート地点にあり、自分が現場で行っていた教育活動のもとになっています。

また、1つの事業を行うためには、様々な立場にある数多くの人に関わり、予算などの財政面も含め、課題等を一つ一つクリアしていかなければなりません。それだけに、責任の重さを日々感じながら仕事に取り組んでいます。

やりがい、達成感、苦労したこと等

指導主事となって、まだ2年目です。まだまだ、分からないことが多く、毎日学ばなければならないことばかりです。特に1年目は、慣れない県庁勤務に加え、学校現場と教育行政の仕組みの違いに戸惑いの連続でした。それでも、何とか1年を乗り切れたのは、周りの方に支えられたからです。各々が膨大な業務を抱えているにもかかわらず、自分の様子を気にかけてくださり、丁寧に指導していただきました。「チーム義務教育課」の力の大きさを実感し、人とのつながりの大切さを感じる1年でした。今後も自分がチームのために誠実に取り組むことが、ひいては兵庫県下の子どものためになっていくと考え、がんばっていきたいと思います。

指導主事を受験する皆さんへ

学校現場で直接子ども達と接する仕事も、教育行政職として行う仕事も行き着くところは、子ども達のために、どれだけがんばれるかということだと思います。どちらも欠かすことのできない大切な仕事です。現場から離れた寂しさを感じることもありますが、視野の広がりや新たなやりがいを実感する日々です。

これまでの主な配属先

H 8. 4 小学校教諭 採用

H21. 4 小学校教諭

H18. 4 在外日本人学校派遣

H26. 4 義務教育課 指導主事